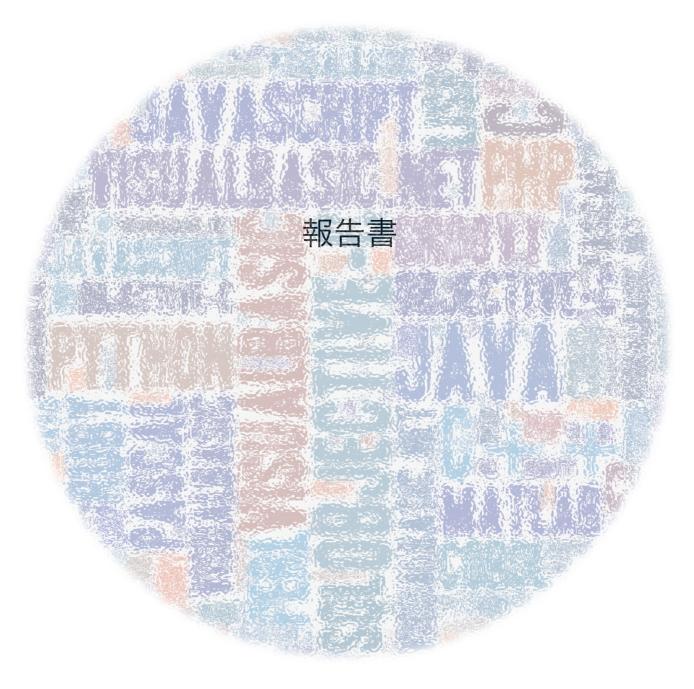
第9回

大阪大学 専門日本語教育研究協議会

--専門日本語教育における IT 活用の可能性--



大阪大学 国際教育交流センター 2016年(平成 28年) 2月 16日

第9回大阪大学専門日本語教育研究協議会

目 次

	1
背景および趣旨	2
講演1:これが教師の生きる道? -スマホ時代のことばと学習- フリーランス 角南 北斗	3
講演 2 :専門日本語学習支援ツールの開発と応用 - 「Hinoki プロジェクト」をもとに- 大阪大学大学院言語文化研究科 講師 Hodošček Bor	5
報 告:大阪大学の日本語教育における IT 利用の現状と課題 大阪大学国際教育交流センター日本語教育研究チーム 准教授 難波 康治	13
全体討論	
記録(文責:義永 美央子)	22
写真: 協議会風景	28
付録: 過去の大阪大学専門日本語教育研究協議会の開催状況	31

第9回大阪大学専門日本語教育研究協議会

日時: 2016年2月16日(火) 13:00~16:55(受付 12:40~)

場所:大阪大学吹田キャンパス IC ホール 2階 講義室5&6

主催:大阪大学国際教育交流センター

第9回大阪大学専門日本語教育研究協議会 専門日本語教育における IT 活用の可能性

総合司会 国際教育交流センター 准教授 西村 謙一

13:00~13:05 開会の挨拶 国際教育交流センター センター長 有川 友子

13:05~13:55 講演1:これが教師の生きる道? -スマホ時代のことばと学習-

フリーランス 角南 北斗

13:55~14:05 休憩

14:05~14:55 講演2:専門日本語学習支援ツールの開発と応用

- 「Hinoki プロジェクト」をもとに-

大阪大学大学院言語文化研究科 講師 Hodošček Bor

14:55~15:45 報告:大阪大学の日本語教育における IT 利用の現状と課題 大阪大学国際教育交流センター日本語教育研究チーム 准教授 難波 康治

15:45~16:00 休憩

16:00~16:50 全体討論:専門日本語教育におけるIT活用の可能性を考える

司会 国際教育交流センター 准教授 大谷 晋也

16:50~16:55 閉会の挨拶 国際教育交流センター 副センター長 村岡 貴子



Twitter から参加しよう!

Twitter にて情報を発信しています。

ハッシュタグ(#oujsp9)をつけて、ご意見、感想、質問をどんどんツィートしてください!

第 9 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

専門日本語教育におけるIT活用の可能性

主催 大阪大学国際教育交流センター

背景および趣旨

これまで本協議会においては、研究留学生に対する専門日本語教育に関連したテーマを種々扱ってきました。議論の枠としては、ライティングのようにスキルに特化したものや、日本語のレベル評価に焦点をあてたもの、キャリア形成や社会への橋渡しの観点から大学での教育を広く捉え直したものなど、多岐にわたっています。

そのような過程を経て、今回の協議会においては、これまで特に重点的には取り扱われていなかった、専門日本語教育における IT を活用した学習や教育の方法を主要なテーマとし、昨今著しい発達を遂げている多様な IT の活用について広く知見を共有し、今後の教育現場への還元が行える議論を展開したいと考えています。

具体的には、まず Web デザイナーとして活躍する一方で、教育現場への IT サポートとして「NIHONGO e-な」「日本語でケアナビ」など様々なコンテンツ制作やアドバイスも行ってこられた角南北斗氏に、「これが教師の生きる道? —スマホ時代のことばと学習—」と題し、専門日本語教育における IT 利用について、デジタル・ネイティブと呼ばれる学習者における「ことば」や「学習」のパラダイムシフトに対応するという観点から講演をお願いします。続く Hodošček Bor 氏には、本学大学院言語文化研究科着任以前より共同開発を進めてこられた「あすなろ」「ナツメグ」など「Hinoki プロジェクト(https://hinoki-project.org/)」の教育・学習支援についてお話しいただきます。さらに、国際教育交流センターの難波康治権教授からは、これまで取り組んできた種々の IT 利用の日本語教育実践とともに、学習者支援システム Okini をご紹介いたします。

以上の講演の後、専門日本語教育における IT 活用の可能性を考える全体討論を展開する予定です。全体討論では、本協議会参加者がそれぞれの教育現場での IT 活用やさまざまな実践、その応用について問題点や課題を共有し、議論の結果が、今後の教育実践の充実とさらなる研究の推進の一助となることを願っています。

講演 1 これが教師の生きる道? -スマホ時代のことばと学習-

角南 北斗フリーランス

第9回 大阪大学 専門日本語教育研究協議会 - 専門日本語教育におけるIT活用の可能性-

講演1) これが教師の生きる道? 一スマホ時代のことばと学習一

担当:角南 北斗

概要

スマホの普及は、私たちの暮らしのIT化を急速に進めています。教育現場では長らく「活用の可能性を探るもの」として捉えられてきたITは、今の学習者にとっては「当たり前に存在する道具」のひとつにすぎません。使うか使わないかではなく、道具としていかに使うかが、教師だけでなく学習者にとっての課題であると言えるでしょう。

この課題と向き合うには何が必要でしょうか。ついつい技術やオペレーションに目を奪われがちですが、それよりも重要なのは「ことば」や「学習」に対するパラダイムのシフトです。これまで教師が代わりに行っていた「ことば」や「学習」のデザインを、学びの当事者である学習者にゆだね、教師はその支援をすること。それこそがスマホ時代における「教師の生きる道」ではないかというのが、本セッションがみなさんに投げかける問いです。

構成

- 1. 自己紹介と本講演の立ち位置
- 2. 専門日本語教育って簡単じゃなくない?
- 3. IT活用の可能性を探る、という時代の終わり
- 4. 変わりゆく「行動・ことば・学習」と日本語教師
- 5. どれがあなたの生きる道?

資料

本講演で使用したスライドや、紹介した文献・サイトについては、 下記URLにまとめています。後日の確認などにお使いください。

http://sunamihokuto.com/oujsp9.html スライドPDFのパスワード:osaka



発表者について

角南 北斗(すなみ ほくと)。大阪在住のフリーランス。大阪大学で日本語教育を学び、博士前期 課程修了後にWeb制作者として活動を開始。当初は教育機関のWebサイト制作をすることが多かったが、国際交流基金関西国際センターとの「日本語でケアナビ」プロジェクトを境に、IT教材の 開発が仕事の中心となる。日本語教育や情報教育の学会で発表を続けるほか、ITリテラシー、プレゼンテーション、飲食店開業支援などの授業も担当。猫が好き。

ブログ: withcomputer.jp Twitter&Gmail: shokuto@

講演 2

専門日本語学習支援ツールの開発と応用 -「Hinoki プロジェクト」をもとに-

Hodošček Bor 大阪大学大学院言語文化研究科 講師



本発表の流れ

- Hinokiプロジェクト: 日本語学習支援ツール
 - 読解学習支援
 - Asunaro(多言語対応日本語読解学習支援システム)
 - 作文作成支援
 - STJC(日本語科学技術論文コーパス)
 - Natane(日本語学習者作文コーパス)
 - Natsume(日本語共起語検索システム)
 - Nutmeg(日本語作文推敲支援システム)
- まとめと今後の発展

V

Hinokiプロジェクトのチーム紹介

- 現在の共同研究者
 - 仁科 喜久子(東京工業大学名誉教授)
 - 阿辺川 武 (国立情報学研究所特任准教授)
 - 八木 豊 ((株)ピコラボ)

Hinokiプロジェクトの過去資料



過去にHinokiプロジェクトをまとめた資料

- 2012年『日本語学習者支援の構築』凡人社
- 2012年 "Japanese Learning Support Systems: Hinoki Project Report", Acta Linguistica Asiatica 2 (3) (英語)
- 2013年 "Contextually Aware Writing Assistance System for Japanese", Dissertation, Tokyo Institute of Technology

Hinoki プロジェクト あすなる なつめ なたね ナツメク 5
日本語学習支援システムを使ってみよう!
ひのきプロジェクトでは、日本語学習者の
ための様々な学習支援・検索システムを無
料で公開している。
以下の4システムからお選びください。

アクセス
https://hinoki-project.org







多言語での意味表示と文 8 の構造を可視化して理解を 促進するシステム

- 専門日本語教育に配慮
 - 読み上げ音声付き『やさしい科学技術日本語』
 (教科書)をCoursewareとして格納

使用方法:

- 1. 読みたいものをテキストボックスに入れる
- 2. 言語を選択する(英語、中国語、タイ語、マレー語、インドネシ
- 3. 辞書で意味、構文表示で構文を確認する

多言語辞書•語義曖昧性解消機能

- 係り受け解析はCaboChaを使用している
- 分かち書きだけでなく複合要素の意味検索 もできる
- 意味概念はEDR電子化辞書が基準





DEMO 9

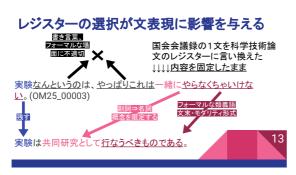


まとめ Asunaro

特に科学技術日本語のための読解を支援している。構 文の可視化と多言語辞書での意味表示が特徴。

構文の可視化機能を更新し他のシステムで使用できるようにする(例えば、Natsumeの例文表示)。









日本語科学技術論文コーパス 学者 歯文集・植鉢名 収集年 協文数 復界位数 土木字会 土木字会論文集(A, B, C, D) 2009-2010 117 789,398 日本化字会 日本化字会話 2000-2002 184 708,269 日本原料大学原学会 日本医科大学原学会雑誌 2005-2009 43 196,428 電気学会 電気学会論文誌 1997-1989 213 881,562 高話処理学会 自然書籍処理 1994-2003 201 1,655,975 高話処理学会 高話処理学会年次大会予結集 1998-2013 4,865 23,241,657 16 ・例文表示の利用許諾を得ている







日本語学習者作文コーパス

- 日本語教師が誤用タグを用いて添削
 - 誤用タグの分類はコーパスとともに形成してきた
- 作文収集(交渉)作業:大学学部生を対象
 - 東京工業大学
 - 中国·西安交通大学
 - ○「インド・プネー市学習者コーパス」
- 作文データの公開にあたっては、書面で学習者 一人ひとりの許諾を得ている

20

誤用種別の定義

- 誤用の対象
 - 文章あるいは文の構成要素として何に該当するか
- 誤用の内容
 - どのような誤用を犯したのか、その内容を分類する
- 誤用の要因・背景
 - 犯した要因またはその背景を分類する

1

Slateによる添削(タグ付与)作業

22



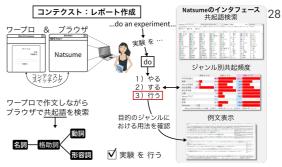


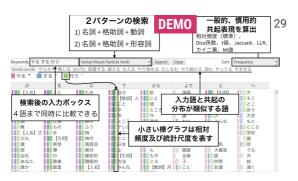


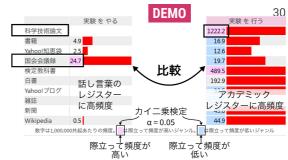




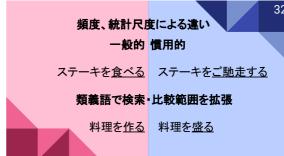














目的のジャンルにおける一般的ないし慣用的共起表現 の検索から実例をみて用法の確認ができる。

誤っていると自覚しない表現については支援できない。 作文作成環境と共起語検索環境が異なる。

Nutmeg

日本語作文推敲支援システム

目的

作文作成時に自動で誤りを指摘、フィードバックを与えることで学 習者が自ら解決策を考えて直していく。

方法

Natsumeのジャンル別共起表現のデータから科学技術論文にふさわしくないと思われる共起表現を同定する。





日本語には、ひらがな、カタカナ、漢字の3種様の文子が念ります。だからでそ、日本部は日本語 た。もしての三つの中でされが近けは、誰の感があるからしれない。もちろん思中感人だから 日本語は金融解学ではいた。私によってかかりやすいと考えがある。しかし来命では、 事業があったら、火に近え着するためは一番はかい見ない。全部のようだされば、我が高い としれない。機能などは、2004年の最初が、1000年の最初が、1000年の日本語が、10000年の日本語が、1000年の日本語が、1000年の日本語が、1000年の日本語が、1000年の日本語が、1000年の日本語が、 レジスターの誤り 「ほうがいい」という表現は、論文やレ ボートよりも話し言葉やプログなどで多く 使われる傾向にあります。

表記揺れ

同音・同意味の語句について異なる表記が 混在しています(当り前、当たり前)。

DEMO 37

最初に手がけた指摘 の種類:

- レジスターの選択 誤り
- 表記のゆれ



まとめ **Nutmeg**

自覚しない誤りを指摘し、言語理解を促す。レジスターの 概念を導入し、専門的な作文作成を目指す。

誤り指摘の理由を詳しく述べ、修正候補を提示する足場 作りが必要か。指摘・候補の精度が重要。

まとめ 今後の展望 学習者が参照する表現に関する情報

語と語の関係 (共起関係情報)

作文校正支援ツールの現状

- 英語を対象にした研究、サービスが多い
- 3 Shared Task: Grammatical Error Correction + 2014, 2015 (2015 は中国語のみ)
- After the Deadline (LanguageTool)
- - mmarly 科研費申請書からビジネスメールまであらゆる目的のレジスターが選択可能 ルールベースから機械学習ベース ブラウザとワードにアドオンがあり、利用者が普段のワークフローの中で容易 に取り入れる
- Deep Grammar文法チェッカー

日本語校正支援ツール

Chantokun

語の意味 (辞書)

- Yahoo! Japan 校正支援
- Enno 日本語のタイポ/変換ミス/誤字脱字エラーをチェック
- 文章の書き方をプロ並みにする話題の文章作成無料ツール10選
- textlint: The pluggable natural language linter
- マイクロソフトワード
- ジャストシステムズのJust Right!

40

語と周辺文脈の関係

(実例、レジスター情報)

報告

大阪大学の日本語教育における IT 利用の現状と課題

難波 康治

大阪大学国際教育交流センター

日本語教育研究チーム 准教授

2016.2.16. 第9回大阪大学専門日本語教育研究協議会 「専門日本語教育におけるIT活用の可能性」 「大阪大学の日本語教育における IT利用の現状と課題」 大阪大学 国際教育交流センター(CIEE) 難波康治

なぜ取り組み始めたか?

- 1. 留学生(=日本語学習者)の増加
- 2. 最近の学習者の変化
 - デジタルネイティブ第二世代?
 - PCよりゲーム機に詳しい
 - いつでも繋がっていたい
 - Youtubeで独学?

2

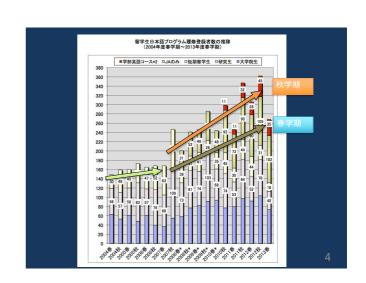
なぜ取り組み始めたか?

1. 留学生(=日本語学習者)の増加

今後5年で1.8倍に? H27年 2,142人 → H32年 3,750人? (H9年当時885人)

量の増加(留学生数の増加)に 何らかの形で対応する必要

3



なぜ取り組み始めたか?

・学習者の変化は当たり前

学習者はいつも「最新型」 私たちの相手はいつも18歳



5

これまでやってきたこと

- 日本語レベルチェックシステム
- ・ Web履修登録システム
- ・日本語教育に特化した学内SNS "Okini"
- ・いちょう基礎日本語(e-learning)
- ・ Web漢字学習システム
- ・iOSアプリ "Perfect Master Kanji"
- ・タブレットを利用した授業

6

本日の内容 (予定)

- 1. デジタルなんていらない一ITは本当に必要か?
- 2. 学習者は何を使っている?
- 3. ITで授業は必要なくなる?
- 4. 事例紹介(1)

アナログとデジタルを併用した漢字学習プログラム

- 5. 事例紹介(2)
 - 動画制作・配信を中心にした協同学習
- 6. 事例紹介(3)

Okini:LMSを簡単に

7

1.ITは本当に必要か?

- ① ホワイトボードで話し合いを記録
- ② ポスターセッションも魅力的
- ③ デジタルと組み合わせれば・・・
- +カメラで超簡単Webリソース
- +Webサイトにアップロードで共有
- 全てをITで処理するのではなく、 授業ではアナログの方がよい場合も

8





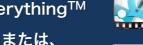
1.ITは本当に必要か? ・作文添削をネット上で ・作文添削をネット上で ・SkitchとEvernoteで添削をIT化



1. ITは本当に必要か?

タブレットを使うと・・・

Explain EverythingTM



ShowMeTM



(iPadアプリ)

1.ITは本当に必要か?

タブレットを使うと・・・



1. ITは本当に必要か?

- タブレットを使うと・・・
 - 簡単に教育ビデオを作ることができる。
 - ネットを使って学生に配布
 - Webの共有サイトにアップロードして、他の 人と共有できる。

1.ITは本当に必要か?

ファイルをやりとりする必要性



▶ LMSを使う必然性が出てくる

LMS = Lesson Management **System**

2. 学習者は何を使っている?

2. 学習者は何を使っている?

事例1)漢字学習

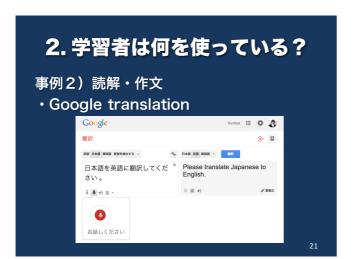
- ✓ 辞書?
- ✓ 電子辞書?
- ✓ タブレット・スマートフォン?

よくある苦情、

学生がスマホばか りいじっている













3. ITで授業は必要なくなる?

- MOOCsよりもYoutube?いろいろやってみました。▲
- ・上手な人がやればいい?

例:「旭文文創」≜

→ 対面授業をより「人間的」に!

25

4. 事例紹介(1) アナログとデジタルを併用した 漢字学習プログラム

大学の日本語教育における漢字学習

・漢字圏・非漢字圏の学習者の漢字習得の差

・受講生が多く、漢字の個別指導が困難

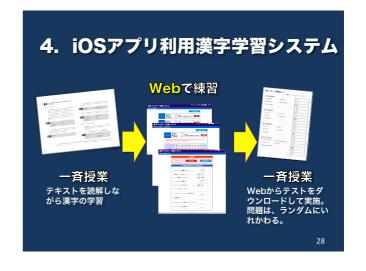
・日本語の漢字の発音の習得

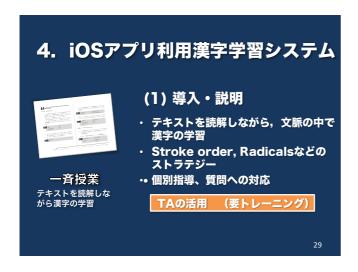
・クラス運営の効率化・予算措置の限界

効果的な

効果的な

学習システムの必要性









Perfect Master Kanji N5-N2の特長

- ☆漢字語1,125語(漢字1,023字を含む)を精選
- ☆67のUnitで日本語能力試験N5からN2まで対応
- ☆文章を聞いたり読んだりして漢字の読み書きを学習
- ☆画面に表示される漢字をなぞって書き順の練習
- ☆合成音声により、オフラインでも全ての問題の音声 を聞くことが可能

32

5. 事例紹介(2)

動画制作・配信を中心とした 日本語授業

33

6. 事例紹介(2)

- Moodleを授業支援ツールとして利用した日本語授業(2005-2010)
- 2) Okiniを授業支援ツールとして利用した 日本語授業(2011-現在)
- 3) ビデオ制作・配信を中心とした日本語授 業(2010-現在)

24

5. ビデオ制作・配信を中心とした 日本語授業

④ プロモーションビデオ作成(2010-現在)

学部 1 年生対象

大学PV (3分以内) や未来の商品PV (30秒) を作成する「売り込もう」プロジェクト

- ・ パーソナル・ブロードキャスティング
- ・ 自己アピールの方法を学ぶ
- マーケティングの理論を応用

5. ビデオ制作・配信を中心とした 日本語授業

- ④ プロモーションビデオ作成
 - ・プロセス
 - 各大学のPVを評価
 - コンセプト作り(プロット、形式)
 - ストーリーボード・脚本作り
 - 練習(TTSとSTTを使用)
 - ビデオ作り(撮影、編集)の技術



⇒それぞれの過程の中にIT支援を埋め込む

36



TTS & STT

- TTS (Text-to-Speech)
 - テキストを読み上げてくれるアプリやWeb サービス
 - 合成音声エンジン(Siriなど)
- SST (Speech-to-Text)
 - 音声入力をテキストに (Dragon Dictation)



➡ 今やスマホの基本機能となっているが・・・

5. ビデオ制作・配信を中心とした 日本語授業

ビデオ教材の作成

- 何に気をつけなければならなかったか?
 - × 機材の操作?
 - × 撮影技術?
 - × 内容の検討?

38

5. ビデオ制作・配信を中心とした 日本語授業

それより前にやることは?

- ① 動画が必要な活動とはなに?
- ② ブレーンストーミング
- ③ ストーリーを考える
- ④ 脚本を書く
- ⑤ 「絵コンテ」を作る
- ⑥ 脚本を修正する

5. ビデオ制作・配信を中心とした 日本語授業

Youtubeで配信

- ① 動画の編集(明るさ、スタビライズ)
- ② 字幕
- ③ アノテーション

6. Okini: LMSを簡単に

- ① 自己表現活動中心の新たな基礎日本語のカリ キュラムと教材の開発及びそれに関連する研究
- ② 大学院生の研究活動及び各活動に関連する ディスコースの研究とそれらに基づくアカデ ミック・ライティングとアカデミック・オー ラル・コミュニケーションのカリキュラムと 教材の開発及び実施と検証
- ③ 社会科学系を専門とする日本語教員による社会科学日本語のカリキュラムと教材の開発的 研究
- ④ 日本語教育 IT 支援プラットフォームに関する11

6. Okini: LMSを簡単に

- ・全学対象LMS(WebCT®)の導入
 - ×正規科目でしか利用できない
 - × 機能が多すぎて複雑すぎ
 - × ユーザーインターフェースが悪くてわけわか らな い →現在は改善

6. Okini: LMSを簡単に



43

6. Okini: LMSを簡単に

- 自分だけの授業担当からプログラムの コーディネートへ
 - そのために必要だった「Okini」
 - 誰でも使えるLMS
 - 欲しい機能だけを欲しい画面で
 - 教師のコラボレーション

44

参考文献など

- ・ 難波康治(2013)「高等教育レベルの学習者を対象としたiPhoneアプリ利用日本語初・中級教育システム」『日本デジタル教科書学会2013年度年次大会発表原稿集』、pp.41-42.
- ・ 難波康治・角南北斗・藤井正明 (2012)「日本の大学 における日本語教育・学習支援プラットフォーム "Okini"の開発2」『国際日本語教育研究大会研究論 集(PDF版)』
- ・ 難波康治・角南北斗(2011)「大学での日本語教育を 支援するITプラットフォームのデザイン」『日本語教 育方法論研究会誌』、査読無Vol.18-1, pp. 41-51

45

参考文献など

- 難波康治(2010)「上級学習者を対象とする日本語 教育支援におけるIT利用の試み – Moodleを利用 した協同学習を中心に–」(単著) 『国際日本語教 育研究大会論集(CD-ROM版)』
- 村上吉文「むらログ:日本語教師の仕事術」 (http://mongolia.seesaa.net/)
- ・ 山田智久(2012)『日本語教師のためのTIPS 77 ICTの活用』くろしお出版

46

全体討論

専門日本語教育における IT 活用の可能性を考える

第9回大阪大学専門日本語教育研究協議会 一専門日本語教育におけるIT活用の可能性―

日時: 2016年2月16日(火) 13:00~16:55(受付 12:40~)

場所:大阪大学吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 5&6

主催:大阪大学国際教育交流センター

16:00~16:50 全体討論 専門日本語教育における IT 活用の可能性を考える

司会:国際教育交流センター 准教授 大谷晋也

議事録

<他の発表者の発表を聞いた感想>

難波:お互いの発表内容を改めて聞いてみて、日本語教育の中で毎日やっている人間では 気がつかないことが沢山あると感じた。外に出てみようということがとても印象的 だった。

<ホドシチェク先生への質問>

-質問1 (難波准教授より)-

紹介されたツールを使った学習者の感想は?

(Twitter にも「学生が活用するには教師は仲介するの?」という質問あり)

ホドシチェク:このシステムは授業外での活用を念頭において作っている。例えば、「なつめ」は辞書的に使うもので、教師が教える必要はない。「あすなろ」は、教師が使い方を説明したら学生が自分で使える。つまり、教師が仲介しなければならない部分はあまりない。しかし、作文(ナツメグ)などについては、高度な構文の添削はシステムには難しいので、学生は明らかな間違いを直すために使っている。

難波:他のシステムやアプリによる提供の可能性は?

ホドシチェク:現状のシステムをスマホで使うとすれば、見にくくて使いにくい。可視化されて簡単な物でなければ、使いづらくて学習者がすぐに使えない。そこで、構文表示だけの機能など、それぞれの機能だけのアプリやサイトは考えられる。ブラウザのアプリも出来れば良いが、開発が大変。

<角南先生への質問>

-質問1 (難波准教授より)-

日本語教師が「外に出て行く」には?

角南:今日のようなイベントに来ること、イベントをやること。日本語教師に限ったことではないが、大事なことは、同じフィールドで固まるのではなく、違う分野の人達がいる場所に行くこと。ただし、今日のように実際に会って挨拶できれば良いが、それが難しい人もいる。大半は、アンテナを張っていないので来ない。この場合、おすすめは、イベントで出会った人達と SNS(facebook や Twitter)上で友だちになること。それだけで教室以外の人との繋がりができる。

難波:IT関係にいると、人との繋がりが薄いと言われがちだがそんなこともない。

-質問2 (会場より) -

専門日本語を学習しようとするとき、生徒はまず教材の解説の日本語が読めない、意味が 分からない、という問題がある。日本語教師側も、解説の中に出てくる用語に詳しくない 現状。発表の中で紹介されたアニメ・漫画に特化したものと同等のツールがこれからでき 上がるのか。また、それを実現するためのコストを知りたい。

角南: 実例は、EPAの介護の専門用語に関する Web サイトの辞書的なもの。語彙や説明 文の対訳。「用語辞典の説明文を読むために、まずは日本語を学ぶ」というルートは、 どうしても通らないといけない仕組み。また、実地で学びながら日本語を習得して いく場合は教師がいないため、学習者任せになることが課題。教員を派遣せずとも、 Web サービスを提供して学習者が自分で勉強できるようにするものを整備していく ことは、現実的なコストを考えてもある程度やれることの一つ。そこから、一つの 分野で仕組みが出来れば、コンテンツの中身を変えるだけでその方法をいろいろな 分野に活用できるのではないか。

大谷:開発やお金や時間をかけずに、今すぐにできることとして。世の中には、既に専門 日本語のために使えるものがたくさんある。既にあるものをうまく使うことを知ら ない人もまだいるので、それを指導するのもあり。

-質問3 (会場より) -

Skype 等を利用した遠隔による日本語教育を考えているか?

角南:アルクでは、Skype によるビジネス日本語の授業がある。アルクと話していたのは 「遅い」ということ。出版業界は決定までにどうしても時間がかかるため、ある程度 仕方がないが、例えば学習者が増加した場合などに対応する「次の一手」が必要な気 がする。

会場:ビジネス対応の Skype レッスンへのニーズはすごく増えている (例:海外居住者向け入社前研修や教師が少ない地域など)。ちなみに、Skype では一対一ではなく、グ

ループでも可能。さらに近年では、大学間のコンソーシアムを活用して、「対大学」という形の遠隔教育も出てくるのではないか。また、教師養成のための Skype 講座も需要がある。

会場:名古屋大学では、ASEAN 諸国(ベトナム、カンボジア、ラオスなど)を中心に、日本語で日本語を学ぼう、というセンターを持っている関係上、遠隔教育をしている(例えば、各地の学生が相互に発表し合ったり、他大学の先生を非常勤講師として雇用してベトナム・ホーチミンに向けて遠隔授業を行ってもらったり)。ビジネス日本語ほど母体が大きいわけではないが、特化したからこそ共同体を作って遠隔で繋がっていくのもありだと思う。

大谷:他大学の先生を名古屋大学が非常勤講師として雇い、その人にベトナムで教えても らうということが国立大学で可能なのか?

会場:大学の経理としては、実際には、研究科の非常勤講師として雇っているのではなく、 ベトナムのセンターにつける予算のなかで謝金払いをしている。

難波:Ustream(いわゆる実況放送)で授業をやってみたこともあるが、今の時代、テレビ電話は簡単に使える。ただし、機械的な仕組みはあるが、人をつなぐ仕組みがない。 先述のホーチミンの話のように、人を繋ぐ仕組みを作ることが重要。大阪大学でもサンフランシスコと繋ぐ事例が日本語教育以外にもある。その場合、例えばビジネス分野でビジネスマンが教えたり、いわゆる教師でなくてもいいのかもしれない。やる人はどんなところでもできるので、それを繋ぐ仕組みが欲しい。それともう一つ。常に同期してなければいけないということでもない。録画しておいて、学生が見るというのもいいんじゃないか。

<難波准教授への質問>

-質問1 (ホドシチェク先生より) -

専門分野に特化した日本語教材・ツールを作るとは、どういうことか? それぞれの専門のものを作るのか、それとも共通的なものを作るのか。

難波:各分野の専門用語の語彙を扱ったもの(例:経済、看護など)は、結構ある。では、 それ以上に提供できるものとして、何があるのか。むしろ、会場にも問いたい。

-質問2 (会場より) -

IT を活用しようとすると、賛成派と反対派の間で二極化してしまっている。 その溝をどのように解決してきたのか?どのようにブリッジをかけてゆくのか?

難波:分かる側からすると、何が分からないか分からない。だから、どのようなことが問題なのかを明らかにしてゆくことも重要。そのためには、彼らの質問を良く聞かな

いといけない。また、私達も誰かに教えられたり先生がいた訳でもないので、とり あえず使ってみることも大事。がんばります。

会場:最初は取り組むのが一人でも、その人が楽しそうにやって、作業もそこまで難しくないことを示す。それを周囲が目にして理解が進んでくると、周囲も手伝ってくれたり、アイデアを出してくれたりする。そして、効果が出てくると、良い物は使っていきたいという思いから教師たちは興味を持ち出す。

角南:補足ですが、自分が知らないだけで、そういうことをやっていたり、自分より詳しい人は海外も含めてたくさんいる。特に Twitter は気軽にフォローすることが出来るので、この機会にそういう人と繋がっておけばいいと思う。

-質問3(会場より)-

筑波大学にある SNS システムでは、学生はユーザー登録はするが、登録するだけしてあまり閲覧されない、普及しなかった。理由の一つに、学生は遊びと結びつく SNS (facebook など) であれば積極的に利用するが、勉強のための SNS となるとクリックするまでが重いことがある。Okini の場合、どのように普及させているのか。

難波: Okini は、授業の連絡手段として利用することに特化(配布資料、参考資料、発表動画、宿題提出など)。そのため、学生が何かしなければならない気になる、レスポンスしなければいけない形になっているからではないか。アクセスのログを見ると、宿題を提出する場になっている現状。さらに、普及の背景として、授業が3キャンパスに跨ることから、課題提出のネット化などについて、もともとニーズがあった。

-質問4(「質問3」に続き、会場より)-

大学の SNS システムは、コンテンツの充実やメンテナンスなどについて、開発後に放置されるケースが多い。Okini の場合、メンテナンスはどうしているのか?

難波:大きいシステムを作ろうとすると大きなお金がかかるし、メンテナンスにもお金がかかる。この財源をどう担保してゆくかは頭を抱える問題。利用者一人当たりに換 算のコストを提示するなど、いろいろな説得を考えている。

-質問5(会場より)-

紹介された漢字アプリの利用率は、Webからアプリにしたことで変化があったか?

難波:データはとっていないが、アプリ化して一時的に利用率は上昇した様子。しかし、 このアプリはアンドロイドに非対応だったため、使えない学生がいた。Quizlet をす るようになってからは、この苦情はなくなった。 -質問6(会場より)-

Okiniは、パッケージ化など、他大学への導入も可能なのか。

難波:そもそも Okini は本センターに特化して開発したものなので、当初は意識していなかったが、段々と内容も整ってきたので一昨年頃からパッケージを意識している。特に、一般的に大学のシステムは一つの授業を一人の教師で行うことを想定して作られている場合が多い。一方 Okini は、ティームティーチング向けに開発した。そのため、同じような形態には向いていると思う。まだ実現には至っていないが、いくつかの大学から引き合いがあって、もしご興味があれば。

会場:管理やコストの点から、エレメントは独自に作らないほうがいいという話がある。 筑波大学でも作ったが、facebook を活用している。

難波:おっしゃるとおり。誰かが管理者になって大きな負担を負わなければならない。今は SNS も柔軟になってきたが、当時(Okini 作成時)は我々の望むものがあまりなかった。簡単に言うと、自分たちの欲しいものがなかったので自分で作った感じ。かつ、なるべくシンプルにしてメンテナンスコストを下げる目的もあった。

角南:情報系ツールは色々な大学が作っていて、常に議論になる。そして、答えがなかなか出ない。時代によって授業内容やスタイルも変化するので、柔軟でないとシステムとして長期スパンで上手く行かない。教員がやりたい授業や、学生と構築したい関係などが変わってくると、必要な内容も変わってくる。かたや、がっちり講義をする先生もいるので、その全てに合うツールというのはとても難しい。

大谷: 私もコンピュータは好きだが、授業で IT を使うのは好きではないので、二極のどちらでもなく真ん中の立場。なぜかというと、手間隙がかかる割に明確なメリットが見えにくいから。しかし、既に作られたものは沢山あるので、それを少しずつ使っていくことが二極化の壁をとっぱらっていくことになるのでは。例えば、facebook が結局良かったというのは非常に面白い話。facebook はお金をかけずに明日からでも始められるので、すぐに活用し始める人がいてもおかしくない。一方で、今日の発表者の方々や他の方々が新しく作られるようなものも考えながらやっていく手もあり。柔軟に活用していっていただけたら良い。

以上

協議会風景

「第9回大阪大学専門日本語教育研究協議会」講演風景



角南 北斗 様 (1)



角南 北斗 様 (2)



Hodošček Bor 先生 (1)



Hodošček Bor 先生 (2)



難波 康治 准教授



全体討論のパネリストと司会



会場の様子



質疑応答の様子 (1)



質疑応答の様子(2)

付録:過去の大阪大学専門日本語教育研究協議会の開催状況

1. 第1回大阪大学専門日本語教育研究協議会:

「大学院レベルの専門日本語教育とは何か」

日時:2007年3月13日(火)13:00~17:50

場所: 吹田キャンパス IC ホール 留学生センター 2 階 Room 5 & 6

2. 第2回大阪大学専門日本語教育研究協議会:

「大阪大学における専門日本語教育のさらなる定着に向けて

―留学生・指導教員とのディスカッションを通して―」

日時: 2009年3月10日(火)13:00~17:30

場所: 吹田キャンパス IC ホール 留学生センター2階 Room 5 & 6

3. 第3回大阪大学専門日本語教育研究協議会:

「専門日本語教育におけるライティング能力の養成

―留学生と日本人学生の双方に対する教育の共通課題―」

日時:2010年3月9日(火)13:00~17:30

場所:吹田キャンパス コンベンションセンター会議室1

4. 第4回大阪大学専門日本語教育研究協議会:

「キャリア形成につながる専門日本語教育を考える」

日時:2011年3月8日(火)13:00~17:00

場所:吹田キャンパス コンベンションセンター会議室1

5. 第5回大阪大学専門日本語教育研究協議会:

「日本語教育のスタンダードの課題と展望」

日時:2012年2月15日(水)13:00~17:00

場所:吹田キャンパス コンベンションセンター会議室1

6. 第6回大阪大学専門日本語教育研究協議会:

「研究留学生のための専門日本語教育を考える」

日時:2013年2月19日(火)13:00~17:00

場所:吹田キャンパス コンベンションセンター会議室1

7. 第7回大阪大学専門日本語教育研究協議会:

「上級レベルの専門日本語教育 -理論と実践-」

日時:2014年2月17日(月)13:00~17:00

場所: 吹田キャンパス IC ホール Room 5 & 6

8. 第8回大阪大学専門日本語教育研究協議会:

「グローバル時代を生き抜く力の養成と大学における日本語教育を考える -大学から社会への橋渡しを視野に-」

日時:2015年2月17日(火)13:00~17:00

場所:吹田キャンパス コンベンションセンター 2階 会議室 2